

令和5年8月8日

全国公立学校教頭会研究大会
石川大会参加者様

石川県公立小中学校教頭会
会長 大宮 弘太
全国公立学校教頭会研究大会石川大会
実行委員長 柳瀬 道雄

第65回全国公立学校教頭会研究大会石川大会の開催について（御礼）

拝啓 残暑の候、皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、令和5年8月3日、4日に開催いたしました、第65回全国公立学校教頭会研究大会石川大会兼第51回東海・北陸地区公立学校教頭会研究大会兼第56回石川県小中学校教頭会研究大会の開催にあたり、皆様にご参加いただき、成功裏に終えることができました。誠にありがとうございました。

今大会は、より多くの会員の方が参加できるよう、参集型とオンライン型を併せた初のハイブリッド型で開催しました。おかげさまで、両日とも約3,200名（参集約1,300名、オンライン約1,900名）の全国の会員の皆様にご参加いただくことができました。

振り返れば、大会1日目のシンポジウムでは、田村 学氏、住田昌治氏、長谷川明子氏、島谷千春氏の4名のスペシャリストの方々に、教師力の育成、人材育成と組織の在り方、働き方改革の3つの視点を織り交ぜてお話いただき、これからの学校運営について考えることができました。また、長谷川祐子氏の記念講演では、「豊かな感性を育む場所をつくる」の演題の中、美術館の役割と学校が社会で果たす役割との共通点、持続可能な社会の創り手としての子どもたちを育成するための学校教育の役割等、魅力ある学校づくりに向けて大いなるご示唆をいただきました。

また、2日目は、参集とオンライン参加を併せたハイブリッド型で行った10の分科会別協議会で、私たち、副校長・教頭の抱える教育的諸課題に対して、全国の会員による実効的かつ具体的な提言をもとに協議を行うことができました。協議にあたっては、それぞれ参集グループ、オンライングループでの協議、そしてそれらグループでの協議内容の全体共有等、活発で有機的な協議となったことは、本大会の大きな成果の一つであると感じております。

今後、本大会で得られたことを各地区に、各校に還元していただければ幸いです。

末筆ながら、今後の皆様方の一層のご活躍を心より祈念しております。

敬具